

札幌医科大学附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

基幹施設である札幌医科大学附属病院、研修連携施設である北海道内25病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記載されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、専門研修基幹施設で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B）、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- 地域医療の維持のため、最低でも3ヶ月以上は地域医療支援病院である〇〇市民中央病院で研修

を行う。

研修実施計画例

	A (標準)	B (小児)	C(ペイン)	D (集中治療)
初年度 前期	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院
初年度 後期	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院
2年度 前期	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	帯広厚生病院
2年度 後期	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	帯広厚生病院
3年度 前期	旭川赤十字病院	北海道立子ども総合 医療・療育センター	NTT東日本札幌病院	北見赤十字病院
3年度 後期	旭川赤十字病院	北海道立子ども総合 医療・療育センター	NTT東日本札幌病院	北見赤十字病院
4年度 前期	市立旭川病院	市立釧路総合病院	NTT東日本札幌病院	札幌医大附属病院 (集中治療)
4年度 後期	市立旭川病院 (ペインま たは集中治療)	市立釧路総合病院	NTT東日本札幌病院	札幌医大附属病院 (集中治療)

週間予定表

札幌医大附属病院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	術後診察	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：54,190症例

本研修プログラム全体における総指導医数：67人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	885症例

帝王切開術の麻酔	840症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	595症例
胸部外科手術の麻酔	793 症例
脳神経外科手術の麻酔	1205症例

① 専門研修基幹施設

札幌医科大学大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：山蔭道明

専門研修指導医 (10名)

麻酔専門医 (13名)

山蔭道明 (麻酔, ペインクリニック)	岡田麻里絵 (麻酔)
升田好樹 (麻酔, 集中治療)	杉目史行 (麻酔, ペインクリニック)
枝長充隆 (麻酔, 教育主任)	橘 信子 (麻酔, ペインクリニック)
新山幸俊 (麻酔, 手術室副部長)	水野絵里 (麻酔, ペインクリニック)
新谷知久 (麻酔, 病棟医長)	折茂香織 (麻酔, ペインクリニック)
岩崎創史 (麻酔, 外来医長)	早瀬 知 (麻酔, 神経麻酔)
平田直之 (麻酔, 教室長)	川口亮一 (麻酔, 心臓麻酔)
時永泰行 (麻酔, 研究室長)	君島知彦 (麻酔, 集中治療)
関根利佳 (麻酔, ペインクリニック)	室内健志 (麻酔, 神経ブロック)
木村さおり (麻酔)	高橋和伸 (麻酔, 神経生理)
	高田幸昌 (麻酔, DAM)
	吉川裕介 (麻酔, 心臓麻酔)
	君塚基修 (麻酔, 産科麻酔)

麻酔認定病院番号 5

特徴：ペイン, 集中治療のローテーション可能

麻酔科管理症例数 6.063症例

必要症例	本プログラム分
------	---------

小児 (6歳未満) の麻酔	250症例
---------------	-------

帝王切開術の麻酔	160症例
----------	-------

心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	150症例
---------------------------	-------

胸部外科手術の麻酔 180症例

脳神経外科手術の麻酔 200症例

② 専門研修連携施設A

(1) 帯広厚生病院

研修実施責任者：山本修司

専門研修指導医（4名） 専門医（2名）

山本修司（指導医、麻酔、救急、ペイン）	佐藤順一（指導医、麻酔）
黒田浩光（指導医、麻酔、救急集中治療）	金 忍（専門医）
川岸俊也（指導医、麻酔）	長谷川宙希（専門医）

学会認定番号：224

麻酔科管理症例：4,374

特徴：帯広厚生病院は、ベッド数748床、診療科数20、医師数141名の地域中核病院です。十勝地域唯一の救命救急センターが併設されており、地域救急医療においても中心的な役割を担っています。

必要症例 本プログラム分

小児（6歳未満）の麻酔 150症例

帝王切開術の麻酔 120症例

心臓血管手術の麻酔
（胸部大動脈手術を含む） 40症例

胸部外科手術の麻酔 80症例

脳神経外科手術の麻酔 120症例

(2) 旭川赤十字病院

研修実施責任者 住田臣造（旭川赤十字病院副院長）

専門研修指導医（4名） 麻酔専門医（1名）

住田臣造（麻酔、救急集中治療）	大沼幸代（麻酔）
南波 仁（麻酔、救急集中治療）	
小林 巖（救急集中治療）	
四十物摩呼（麻酔）	

認定病院番号: 176

麻酔科管理症例: 3,365

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	35症例
帝王切開術の麻酔	10症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50症例
胸部外科手術の麻酔	50症例
脳神経外科手術の麻酔	300症例

特徴: 旭川赤十字病院では、手術内外における周術期管理の他、救命救急センターにおける救急医療、ドクターヘリ、集中治療業務を麻酔科医が担当し、道北地区の救急医療を担っています。

（3）市立釧路総合病院

研修実施責任者: 其田 一（副院長）

専門研修指導医（3名）	麻酔専門医（4名）
其田 一（麻酔、救急集中治療）	寺田 拓文
四釜 裕睦（麻酔）	川島 如仙
本間 広則（麻酔、救急集中治療）	清水 恵子

麻酔認定病院番号: 95

麻酔科管理症例: 2,115

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	78症例
帝王切開術の麻酔	117症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	99症例
胸部外科手術の麻酔	58症例
脳神経外科手術の麻酔	64症例

特徴：市立釧路総合病院は釧路・根室地域随一の急性期基幹病院であり救命救急センターをはじめ、がん拠点病院、エイズ拠点病院、災害拠点病院等の指定を受けており、地域医療の要となっています。その中で麻酔科は6名の常勤麻酔科医と1名の嘱託医の計7名で手術室での手術麻酔、ER、ICUで救急集中医療を担当し、臨床研修医の救急部門の研修も担当しています。

(4) NTT東日本札幌病院

研修実施責任者：山澤 弦

専門研修指導医（3名）	麻酔科専門医（2名）
山澤 弦（麻酔、ペインクリニック）	浦濱 聡
御村光子（麻酔、ペインクリニック）	宮本菜穂子
佐々木英昭（麻酔）	

麻酔認定病院番号：844

麻酔科管理症例：2,5551

特徴：北海道ではトップクラスの症例数を誇るペインクリニック認定施設です。臨床麻酔は脳外科以外の全ての科で年間2,500例程度行っています。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	70症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	45症例
胸部外科手術の麻酔	4症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

(5) 市立旭川病院

研修実施責任者：一宮 尚裕

専門研修指導医（3名）
一宮尚裕（麻酔、救急集中治療、ペインクリニック）
飛世史則（麻酔、救急集中治療）
山岸昭夫（麻酔）

麻酔認定病院番号：272

麻酔科管理症例：2,284

特徴：ICU認定病院、救急治療認定病院、集中治療認定病院、ペインクリニック認定病院 循環器疾患がメインの病院、定期心臓手術はほぼ毎日行っている。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	5症例
帝王切開術の麻酔	5症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50症例
胸部外科手術の麻酔	20症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

（6）市立函館病院

研修実施責任者：辻口 直紀

専門研修指導医（3名）	麻酔科専門医（1名）
辻口直紀（麻酔）	田中清高（麻酔科医長）
山崎 裕（麻酔、緩和ケア）	
土屋滋雄（麻酔）	

麻酔認定病院番号：74

麻酔科管理症例：2,234

特徴：市立函館病院は、万延元年（1860年）「箱館医学所」として創立し、北海道初の官立病院として発足以来、今年（2010年）で150年になります。

麻酔科は道南地区の急性期医療を担っています。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	40症例
胸部外科手術の麻酔	30症例
脳神経外科手術の麻酔	20症例

（7）JR札幌病院

研修実施責任者：清水 斎

専門研修指導医（3名）

麻酔専門医（1名）

清水 斎（麻酔、ペインクリニック）	山口こずえ（主任医長）
村上真一（麻酔、集中治療）	
木村慶信（麻酔、集中治療）	

麻酔認定病院番号：171

麻酔科管理症例：2,020

特徴：JR札幌病院は、札幌市の中心、札幌駅から徒歩10分に位置し、近隣には、大通公園、時計台、すすきのなどの観光名所があります。病院の歴史は古く、1915年札幌鉄道病院として開設され、以来90年にわたり当地での医療を担ってきました。現在の病院は、2009年に新築した建物で、名称もJR札幌病院に改名しました。病床数312床、19診療科、医師数51名の急性期型病院として充実した診療を行っています。

必要症例	本プログラム分
------	---------

小児（6歳未満）の麻酔	10症例
-------------	------

胸部外科手術の麻酔	20症例
-----------	------

（8）札幌東徳洲会病院

研修実施責任者：鳥谷部 政樹

専門研修指導医（3名）

鳥谷部政樹（麻酔）
須佐 泰之（麻酔、ペインクリニック）
三澤 学（麻酔）

麻酔科認定病院番号：741

麻酔科管理症例：1,818

特徴：心臓血管手術症例、緊急手術症例が多いのが特徴です。東徳洲会病院で初期研修を行った医師が、数多く札幌医大麻酔科で後期研修を継続し専門医を取得しています。

必要症例	本プログラム分
------	---------

小児（6歳未満）の麻酔	10症例
-------------	------

心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	60症例
---------------------------	------

胸部外科手術の麻酔	5症例
-----------	-----

脳神経外科手術の麻酔	50症例
------------	------

(9) 江別市立病院

研修実施責任者：鹿角 雅治

専門研修指導医（2名） 麻酔専門医（1名）

鹿角 雅治（麻酔）	太田 孝一（ペインクリニック）
長井 洋（麻酔）	

麻酔認定病院番号：410

麻酔科管理症例：1,052

特徴：札幌市に近い。麻酔業務とペインクリニック業務を分離しています。江別市内では唯一、緊急帝王切開術をおこなっています。また、無痛分娩にも対応しております。ペインクリニック部門では線維筋痛症などの難治性慢性疼痛患者の治療もおこなっています。病院の特徴としては総合内科が充実しており、全道各地の病院から見学や研修医が集まっています。

必要症例 本プログラム分

小児（6歳未満）の麻酔	15症例
-------------	------

帝王切開手術の麻酔	35症例
-----------	------

胸部外科手術の麻酔	1症例
-----------	-----

(10) 市立小樽病院

研修実施責任者：久米田幸弘

専門研修指導医（2名） 麻酔科専門医（3名）

久米田幸弘（麻酔，ペインクリニック）	中林賢一
高桑 一登（麻酔）	大槻郁人
	和智純子

麻酔認定病院番号：144

麻酔科管理症例：1,500

特徴：市立小樽病院の麻酔科では、以下の3つの診療を中心に行っています。①すべての手術や麻酔が安全に遂行できるように、術前から術後まで麻酔科医が積極的に関与して周術期管理を行っています。②小樽市内では唯一の集中治療室を有し、麻酔科医が中心となって重症救急疾患の対応にあたっています。③痛みの外来（ペインクリニック）を開設し帯状疱疹や腰下肢痛など様々な痛みの治療を行っています。また癌の痛みに対しても積極的に取り組んでいます

必要症例 本プログラム分

小児（6歳未満）の麻酔	5症例
心臓血管手術の麻酔	50症例
脳神経外科の麻酔	100症例

(11) 滝川市立病院

研修実施責任者：井上 光

専門研修指導医（2名）

井上 光（麻酔，ペインクリニック）
岡崎加代子（麻酔，ペインクリニック）

麻酔認定病院番号：414

麻酔管理症例：1,191

特徴：手術麻酔・救急外来・ICU・ペイン外来とすべての分野を麻酔科全員で担当しています。

医局は総合医局で他科の医師とのコミュニケーションも取りやすく明るい雰囲気です。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	8症例

(12) 岩見沢市立総合病院

研修実施責任者：本間康之

専門研修指導医（2名）

本間康之（麻酔，ペインクリニック） 伊藤徹雄（麻酔）

麻酔認定病院番号：144

麻酔科管理症例：872

特徴：常勤麻酔科医2名で、手術麻酔が中心です。麻酔科依頼の手術は、外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・脳神経外科・眼科より受けています。手術室は6室で、年間1000例近くの手術に携わっています。

外来では手術を受ける方の術前診察を主に行っています。その他、帯状疱疹後神経痛の患者さんも診察しています。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	10症例
胸部外科手術の麻酔	30症例

(13) 倶知安厚生病院

研修実施責任者：小塚 雄史

麻酔指導医（2名）

小塚 雄史（麻酔，ペインクリニック）

田辺水緒子（麻酔）

麻酔認定病院番号：1324

麻酔科管理症例：731

特徴：手術麻酔；麻酔科が担当する科は整形外科、外科、泌尿器科、産婦人科です。

ペインクリニック；ペインクリニックでは、帯状疱疹の痛み、帯状疱疹後も持続する痛み、腰下肢の痛み、上肢や肩・頸部の痛みなどに対し各種神経ブロック、局所注射などの治療を行っています。また、必要に応じハリ治療、偏光近赤外線やレーザー照射などの物理療法も行っています。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	5症例
帝王切開術の麻酔	40症例

(14) 苫小牧市立病院

研修実施責任者：河内 正治

専門研修指導医（2名）

河内正治（麻酔）

卯月みつる（麻酔）

麻酔認定病院番号：1687

麻酔科管理症例：1.613

特徴：常勤医4名が専従として麻酔業務を担当しています。手術前の不安の軽減や手術中の管理のみならず、手術後の疼痛や悪心嘔吐を軽減するべく、積極的に病棟回診やPCAを行い、執刀医や看護師と連携をとりながら「周術期管理」という概念で手術を受ける患者さんと接しています。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	50症例
帝王切開術の麻酔	200症例

胸部外科手術の麻酔	30症例
-----------	------

脳神経外科手術の麻酔	90症例
------------	------

(15) 深川市立病院

研修実施責任者：大谷内真弓

専門研修指導医：大谷内真弓（麻酔）

麻酔認定施設番号：1323

麻酔科管理症例：543

特徴：深川市立病院は北空知二次医療圏唯一の二次救急医療機関です。札幌市とほぼ同じ面積に3万5千人が生活し、高齢者率は道内トップの36%を誇り、揺りかごから墓場までほぼすべての救急搬送は当院に速やかに搬入されます。手術件数は五百数十件と例年通りですが、患者さんの平均年齢は上昇し続けており、合併症のマネジメントなどタフな症例が増えております。

緩和ケアチームは満5年を超え、現在がん診療拠点病院の指定を受けるべくがん相談室の設置、がんサロンの開催など準備中です。「(自宅に) 帰れる緩和、(地域や多業種と) つながる緩和」をチームの旗印に、より地域連携を深め、症状緩和のレベルアップを図る所存です。

必要症例	本プログラム分
------	---------

小児（6歳未満）の麻酔	3症例
-------------	-----

帝王切開術の麻酔	12症例
----------	------

胸部外科手術の麻酔	3症例
-----------	-----

脳神経外科の麻酔	5例
----------	----

(16) 北海道子ども総合医療・療育センター

研修実施責任者：名和由布子

専門研修指導医（2名）

名和由布子（小児麻酔，集中治療）

宮下 龍（小児麻酔，集中治療）

麻酔認定病院番号：173

麻酔科管理症例：1011

特徴：北海道で唯一の小児専門病院で、外科系、内科系の診療科からなる医療部門とリハビリ中心の療育部部門からなっています。麻酔科は安全で不安や痛みが少なく検査や手術をうけられる体制を整えております。集中治療室では心臓手術や脳神経外科手術の術後管理、感染症や脳炎・脳症も受け入れています

必要症例	本プログラム分
------	---------

小児（6歳未満）の麻酔	110症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管外科の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25症例
脳神経外科の麻酔	25症例

（17） 中村記念病院

研修実施責任者：古瀬 晋吾

専門研修指導医：古瀬 晋吾

麻酔認定病院番号：1485

麻酔管理症例：681

特徴：中村記念病院は、24時間救急医療体制を堅持しており、札幌市の一次・二次救急指定病院として、市内はもとより近隣市町村からの救急医療に貢献しています。当院の特色は、病院全体が脳神経疾患に特化していることです。脳血管障害（クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞）、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄・脊椎疾患、てんかん、パーキンソン病、痴呆、末梢神経疾患などそれぞれの分野のエキスパートが対応しています。照射などの物理療法も行っています。

必要症例	本プログラム分
脳神経外科の麻酔	200症例

② 専門研修連携施設B

（1）北見赤十字病院

研修実施責任者：荒川 穰二

専門研修指導医（1名）、専門医（1名）

荒川穰二（麻酔、救急集中治療）	大沼 淳（専門医）
-----------------	-----------

麻酔認定病院番号：362

麻酔科管理症例：2,801

特徴：当院は、オホーツク地域の基幹病院として、地方センター病院、救命救急センター等の役割を担っている急性期病院です。「人道・博愛に基づき、患者様を尊重した医療を提供し、地域の期待と信頼に応えます。」の理念の基、職員が一丸となってオホーツク地域の医療を支えています。

必要症例	本プログラム分
------	---------

小児（6歳未満）の麻酔	35症例
帝王切開術の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	45症例
脳神経外科手術の麻酔	40症例

（2）王子総合病院

研修実施責任者：田中 悟

専門研修指導医（2名）

田中 悟（麻酔）
渡辺政徳（麻酔，ペインクリニック）

麻酔認定病院番号：663

麻酔科管理症例：2,547

特徴：麻酔科は現在5名体制であり、手術麻酔を中心にペインクリニック、救急・心肺蘇生、ICU管理、災害対応と業務は多岐に渡っています。

手術麻酔症例数は約2,400件で、うち心臓血管麻酔は約190例あり開心術の麻酔研修や経食道心エコーの習得には事欠きません。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	80症例
胸部外科手術の麻酔	70症例
脳神経外科手術の麻酔	20症例

（3）日鋼記念病院

研修実施責任者：鎌田 康宏

研修実施指導医（1名）

麻酔科専門医（1名）

鎌田康宏（麻酔,ペインクリニック） 渋川圭介（麻酔）

麻酔認定病院番号：239

麻酔科管理症例：2,113

特徴：北海道の広大な医療圏の一つの西胆振地域にある日鋼記念病院は、高度専門医療の提供と地域医療機関との連携による質の高い医療環境づくりを目指して日々取り組んでおります。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	60症例
帝王切開術の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10症例
胸部外科手術の麻酔	30症例

（4）市立室蘭総合病院

研修実施責任者：下館 勇樹

専門研修指導医（2名）

下館勇樹（麻酔,救急集中治療） 西川幸喜（麻酔,集中治療）

麻酔認定病院番号：188

麻酔科管理症例：2,068

特徴：高度に手術が進歩した現在もなお、手術中の「命の番人」として麻酔科は重要な役割を果たしています。なぜならば、たとえ病気を治療するための手術でも、患者さんの身体にとっては大きな痛みを伴う刺激・ストレスであり、そのストレスから患者さんを守ることが麻酔科医の役目だからです。当院は日本麻酔科学会による「麻酔科認定病院」です。専門医を含む麻酔科医4名が年間2000件を超える手術の麻酔を管理している他、ICUでは各科の医師と協力しながら重篤な患者さんの治療にあたっています。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20症例
胸部外科手術の麻酔	15症例
脳神経外科手術の麻酔	60症例

(5) 帯広協会病院

研修実施責任者：佐藤 紀

専門研修指導医（1名）

佐藤 紀（麻酔，ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：892

麻酔科管理症例：1,856

特徴：当院はベッド数360床、診療科数15、医師数41名の二次救急担当病院です。臨床麻酔を中心にペインクリニック、緩和医療を担っております。麻酔科担当手術件数は1800件で、そのうち500件が臨時手術です。当院では外科・産婦人科・整形外科・泌尿器科・眼科・形成外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科の0歳～100歳超の患者さんの手術を経験することができます。救急医療は病院全体で分担しているため、麻酔科は麻酔業務のみに専念しています。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	50症例
帝王切開術の麻酔	20症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

(6) 札幌南三条病院

研修実施責任者：中山 禎人

専門研修指導医：中山 禎人（麻酔）

麻酔認定病院番号：1141

麻酔科管理症例：389

特徴：札幌南三条病院麻酔科では、肺や胸部の手術で必要になる、「分離肺換気」という難しい手技を伴う全身麻酔を、年間400例近く行っています。肺がん手術の症例数は道内1位、全国でも20位以内ですので、肺手術の麻酔管理についてはエキスパートの養成が可能と思います。

必要症例	本プログラム分
胸部外科手術の麻酔	150症例

(7) 北海道医療センター・救命救急センター

研修実施責任者：七戸 康夫

専門研修指導医（2名）

七戸康夫（救急集中治療）

碓 光司（救急集中治療）

麻酔認定病院番号：1229

麻酔科管理症例：1900

特徴：当施設は札幌市に4か所のみ設置されている救命救急センターであり、5名の救急医（専従）が札幌西地区の救命救急を支えている。年間200例超のCPAを含む、重症外傷、急性中毒、重症感染症、ショック、急性呼吸不全、脳卒中、急性心筋梗塞、意識障害、肝不全、腎不全、急性腹症、環境障害（熱中症・低体温症など）などの3次救急を中心とした2200例の救急搬送事案に対して、ERにおける救急初療からcritical careまでをシームレスに行っている。

また、地域災害医療センター（災害拠点病院）であり、2名の統括DMATを含むDMATチームを2チーム擁しており、災害医療では日本の中心となる国立病院機構災害医療チームの中核をなしている。

必要症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	5症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科の麻酔	5症例

(8) 羊ヶ丘病院

研修実施責任者：中山 雅康

専門研修指導医（2名）

中山 雅康（麻酔）

石藤 誠士（麻酔）

麻酔認定病院番号：1528

麻酔科管理症例：2,338

特徴：羊ヶ丘病院は整形外科の専門病院で、各部位ごとにエキスパートによる質の高い医療を提供しています。年間2000件を超える手術に対して、麻酔も高い安全性と質の維持を目指しており、患者様が手術中や手術後を快適に送っていただけるように努めております。

(9) 我汝会えにわ病院

研修実施責任者：田中 博文

専門研修指導医（2名）

田中博文（麻酔）

栗原将人（麻酔）

麻酔認定病院番号：1221

麻酔科管理症例：2,139

特徴：えにわ病院はいろいろな面で特殊な病院と言えます。まずは整形外科と循環器内科、一般内科、そして麻酔科だけの病院であること、整形外科の医師数と手術件数の多さがわが国で有数であること、全国のおさまな大学病院から研修のために勤務する整形外科医が多いこと、国内外から短期見学に訪れる整形外科医が居るなどです。えにわ病院では整形外科医のみならず、麻酔科医、手術室看護師、理学療法士や作業療法士、放射線技師を含めた手術前の検討会、手術後の検討会が毎週行われています。

5. 募集定員

31 名

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2016年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

（プログラム責任者） 札幌医科大学医学部麻酔科学講座 教授 山蔭道明

（問い合わせ先）〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目札幌医科大学医学部麻酔科学講座

研修担当 平田直之

（電話）011-611-2111（内線 3568）

E-mail nhirata@sapmed.ac.jp

Website <http://web.sapmed.ac.jp/masui/>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒業臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた 1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3度の患者の周術期管理や ASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して2年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての〇〇病院，〇〇病院，〇〇病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。